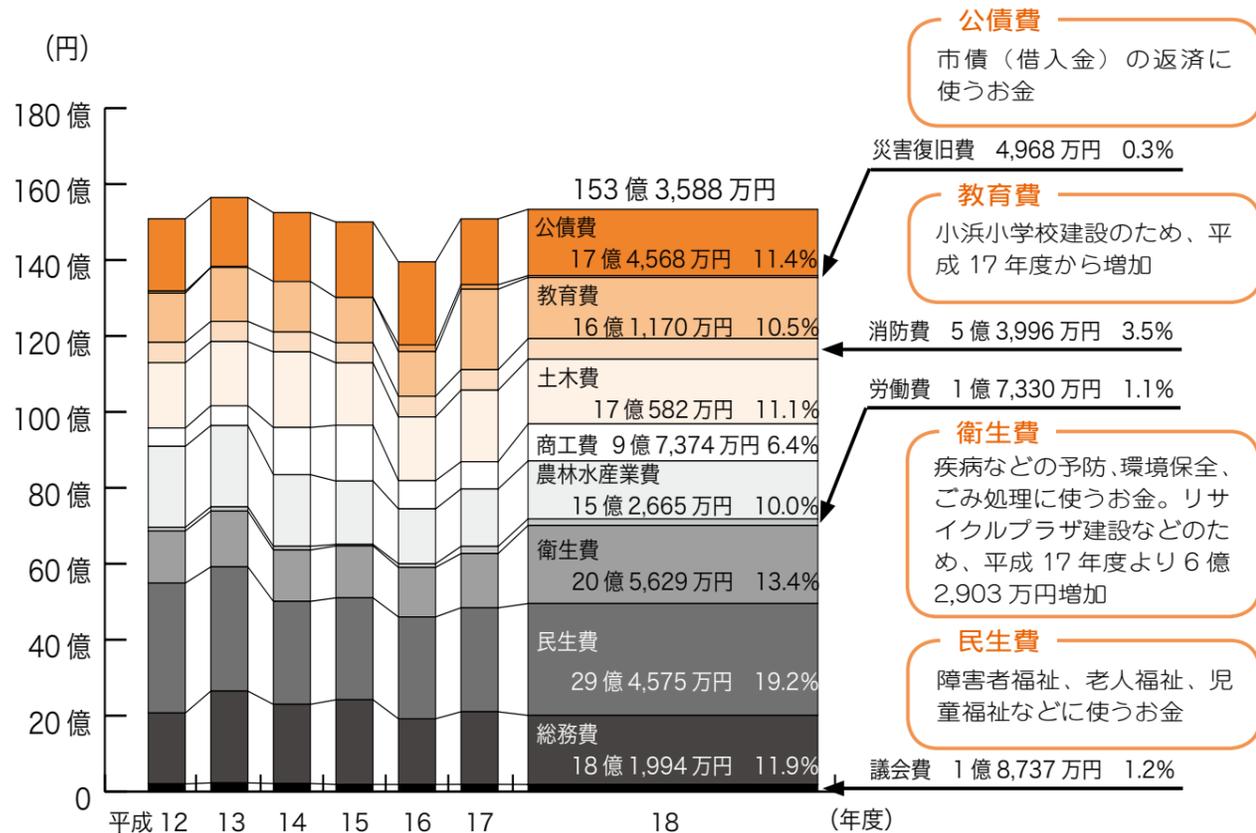


平成 18 年度の決算がまとまりました。皆さんに納めていただいた市税や国・県からの補助金がどのように使われたのかお知らせします。

■問い合わせ 財政課 ☎内線 333

一般会計歳出



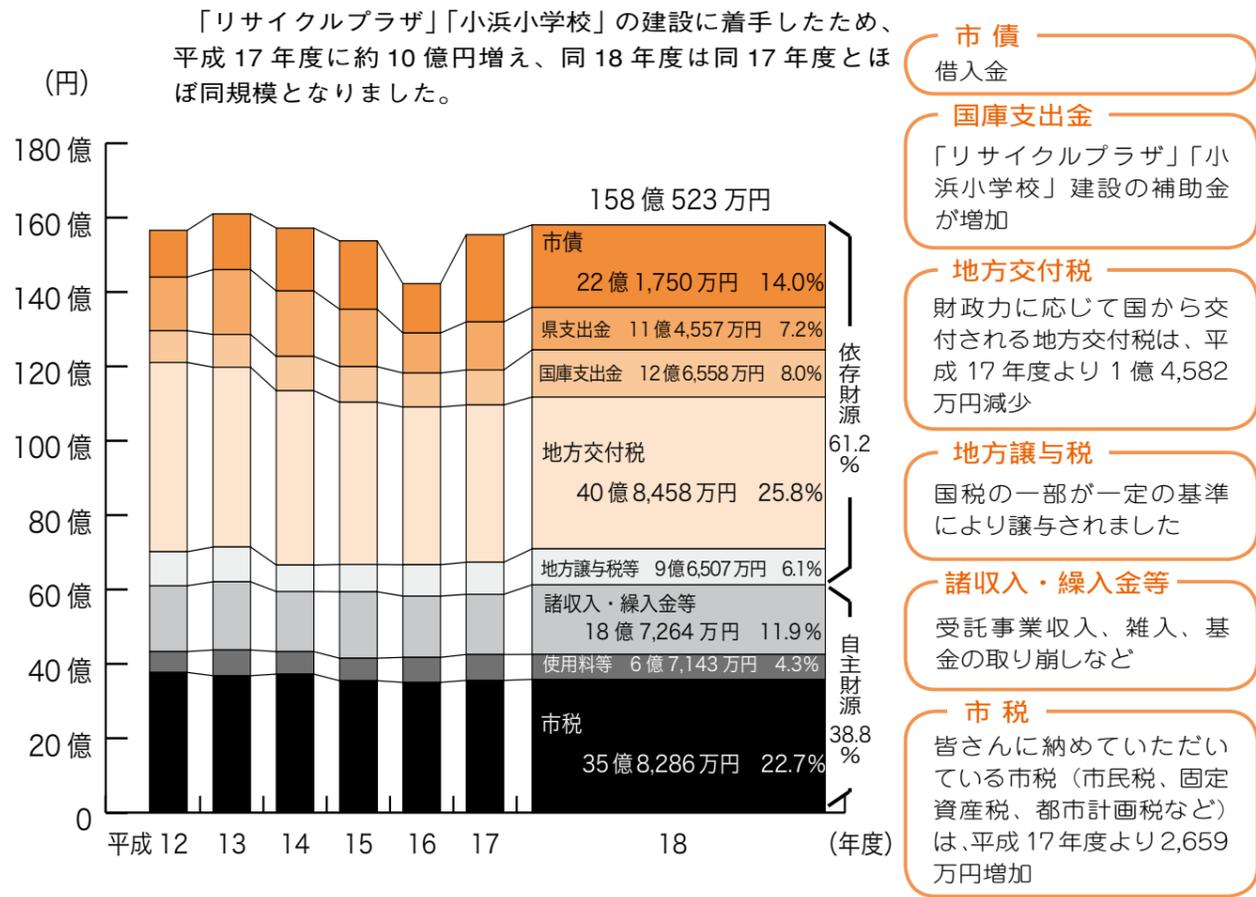
公債費
市債（借入金）の返済に使うお金

教育費
小浜小学校建設のため、平成 17 年度から増加

衛生費
疾病などの予防、環境保全、ごみ処理に使うお金。リサイクルプラザ建設などのため、平成 17 年度より 6 億 2,903 万円増加

民生費
障害者福祉、老人福祉、児童福祉などに使うお金

一般会計歳入



「リサイクルプラザ」「小浜小学校」の建設に着手したため、平成 17 年度に約 10 億円増え、同 18 年度は同 17 年度とほぼ同規模となりました。

市債
借入金

国庫支出金
「リサイクルプラザ」「小浜小学校」建設の補助金が増加

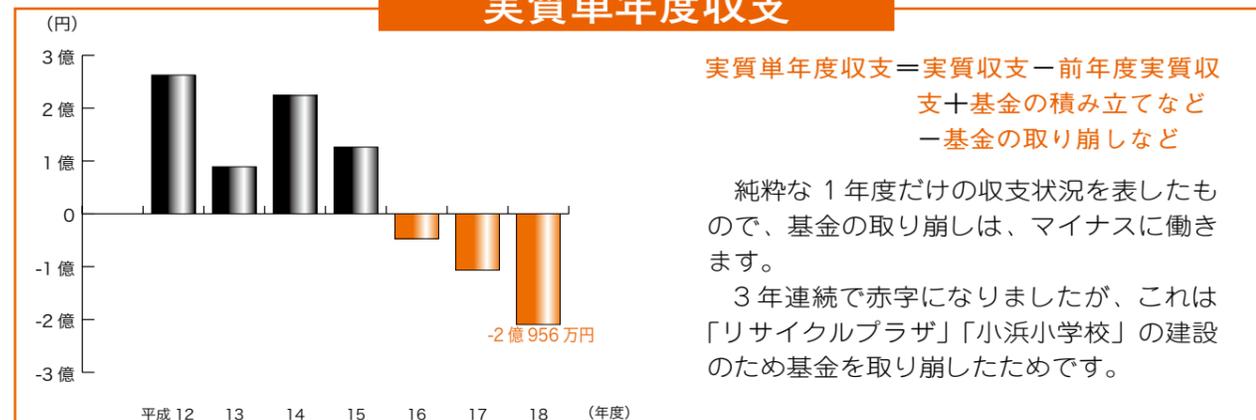
地方交付税
財政力に応じて国から交付される地方交付税は、平成 17 年度より 1 億 4,582 万円減少

地方譲与税
国税の一部が一定の基準により譲与されました

諸収入・繰入金等
受託事業収入、雑入、基金の取り崩しなど

市税
皆さんに納めていただいている市税（市民税、固定資産税、都市計画税など）は、平成 17 年度より 2,659 万円増加

実質単年度収支

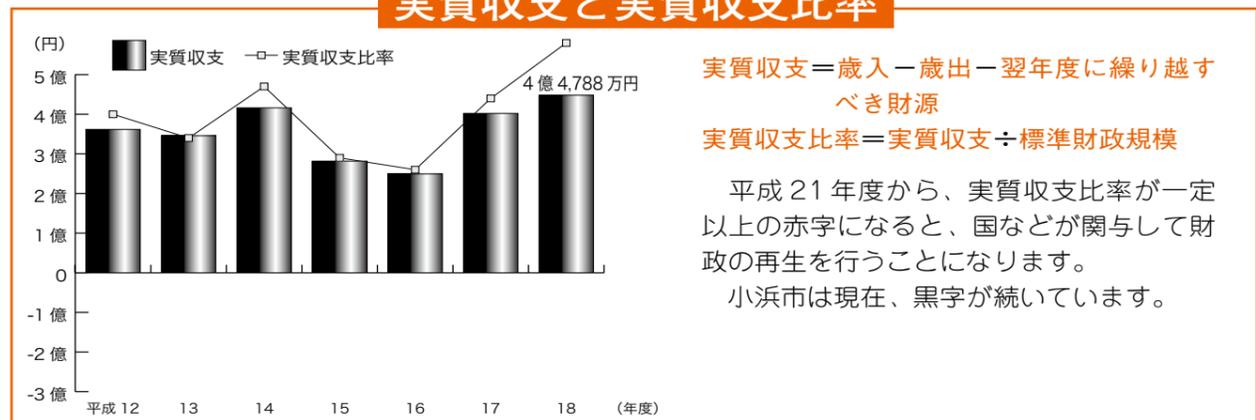


実質単年度収支 = 実質収支 - 前年度実質収支 + 基金の積み立てなど - 基金の取り崩しなど

純粋な 1 年度だけの収支状況を表したもので、基金の取り崩しは、マイナスに働きます。

3 年連続で赤字になりましたが、これは「リサイクルプラザ」「小浜小学校」の建設のため基金を取り崩したためです。

実質収支と実質収支比率



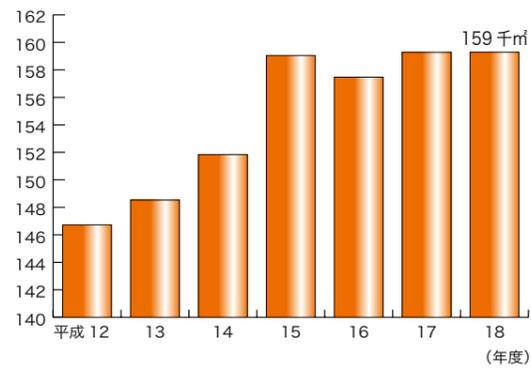
実質収支 = 歳入 - 歳出 - 翌年度に繰り越すべき財源

実質収支比率 = 実質収支 ÷ 標準財政規模

平成 21 年度から、実質収支比率が一定以上の赤字になると、国などが関与して財政の再生を行うこととなります。

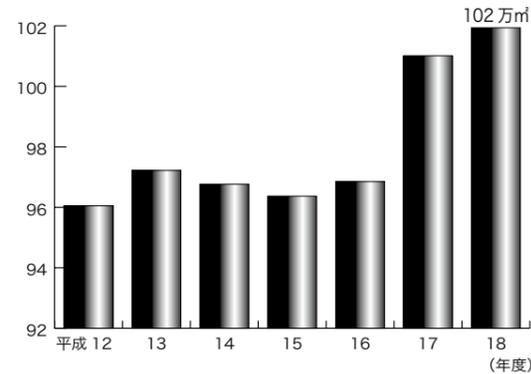
小浜市は現在、黒字が続いています。

市有財産（建物千㎡）



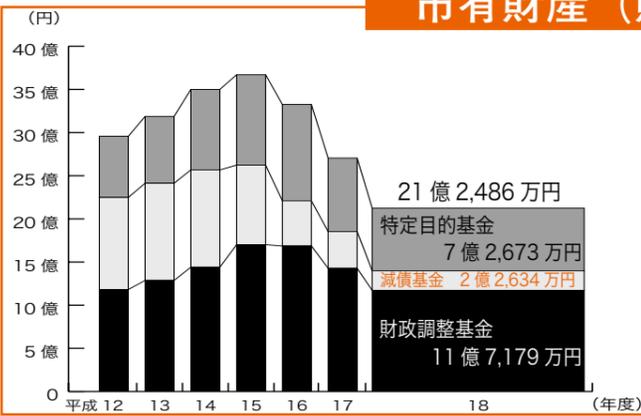
市が持っている建物ののべ床面積です。平成15年度に増えた原因は、食文化館の完成によるものです。

市有財産（土地万㎡）



市が持っている土地です。平成17年度に増えた原因は、「リサイクルプラザ」「小浜小学校」用地として、取得したためです。

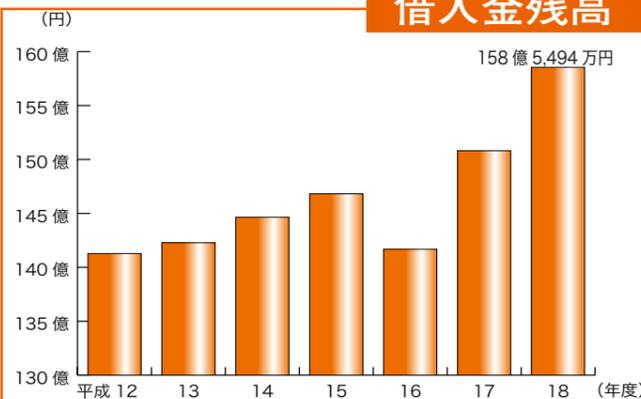
市有財産（貯金残高）



- 財政調整基金…使い道が決まっていない貯金
- 減債基金…借入金返済のための貯金
- 特定目的基金…使い道がしっかり決まった貯金

平成15年度まで「リサイクルプラザ」「小浜小学校」建設などのため、基金を増やしていましたが、建設に着手したため減少しました。

借入金残高（普通会計）



平成16年度に大きく減少した原因は、同7、8年度の3億9,000万円の借入を一括返済したためです。

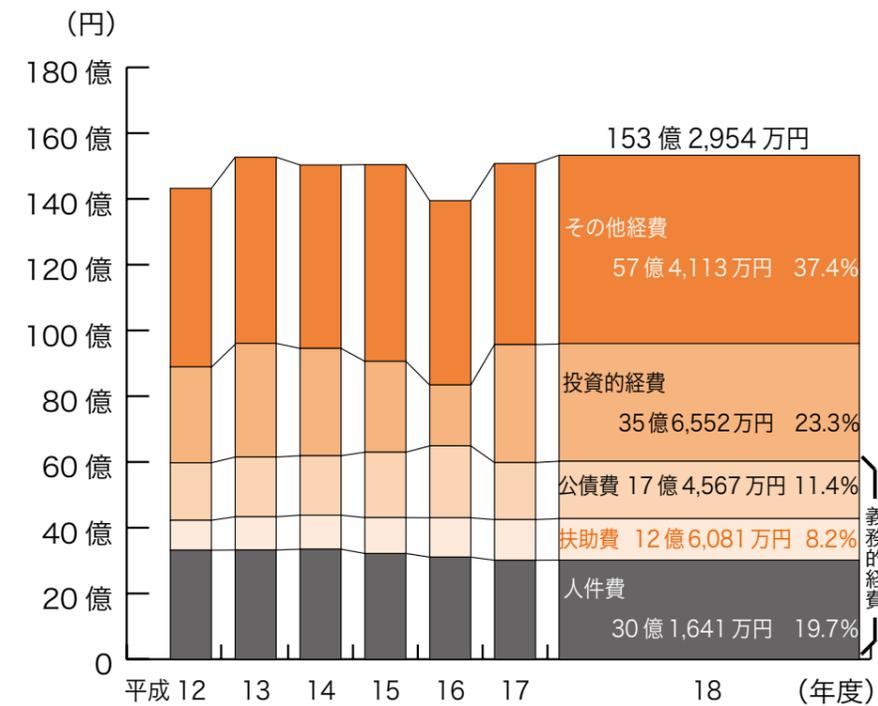
同17、18年度に再び増加した原因は、「リサイクルプラザ」「小浜小学校」建設のために17億8,780万円を借り入れたためです。

一般会計は、平成16年度からの三位一体の改革により、地方交付税の減少が大きく影響し、それとほぼ同時に進行した「リサイクルプラザ」「小浜小学校」の建設が、財政を圧迫した形となっています。これらの建設を含めた大きなプロジェクトは、同19～21年度に完了する見込みですが、借入金の返済が同21年度から本格的に始まります。そのため、今後も「身の丈」に応じた財政運営を心がけていきます

※詳しくは、小浜市公式ホームページをご覧ください

性質別歳出（普通会計）

普通会計とは、全国の自治体の財政比較などを行うために、統計上統一的に用いられる会計区分です。そのため、一般会計とは額が異なります。



その他経費

老人医療や国保特別会計などへの繰出金が平成17年度から1億9,937万円増加

その他経費…物件費、維持補修費、補助費等、積立金、投資及び出資金、貸付金、繰出金

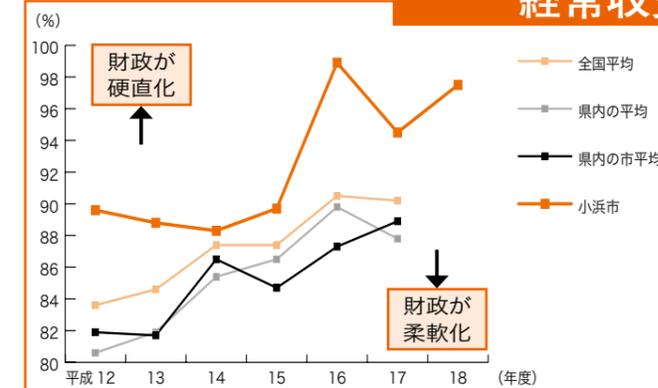
投資的経費

道路や施設の建設費。平成13年度以降減少しましたが、同17年度の「リサイクルプラザ」「小浜小学校」の建設により増加

義務的経費

平成17年度と比べ、人件費が0.2%増加、扶助費（社会保障制度）が2.1%増加、公債費（借入金の償還）が0.6%増加。全体で0.7%、4,137万円増加

経常収支比率

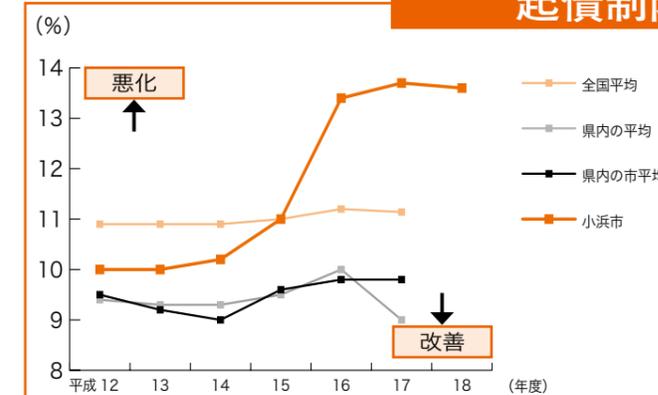


$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常的に支出される経費}}{\text{経常的に収入する金額}}$$

家計に例えると、住居費、光熱水費など毎月確実に支出される経費が、給料のどのくらいを占めるかを表します。数値が低いほど自由に使えるお金が多くなります。

平成16年度に高くなった原因は、借入金の満期一括償還によるものです。同18年度に高くなった原因の1つは、国の算定基準の見直しによるものです。

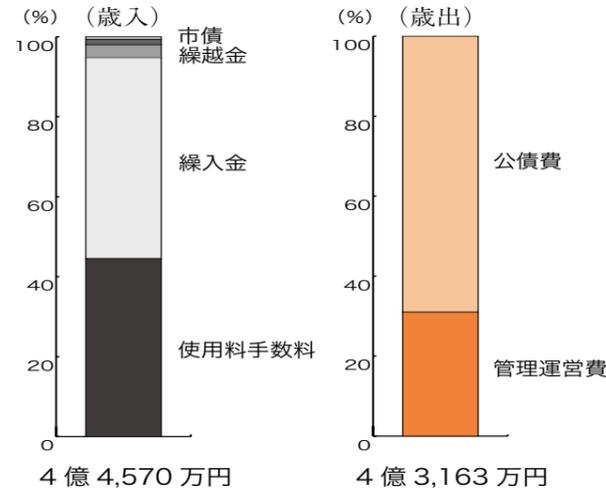
起債制限比率



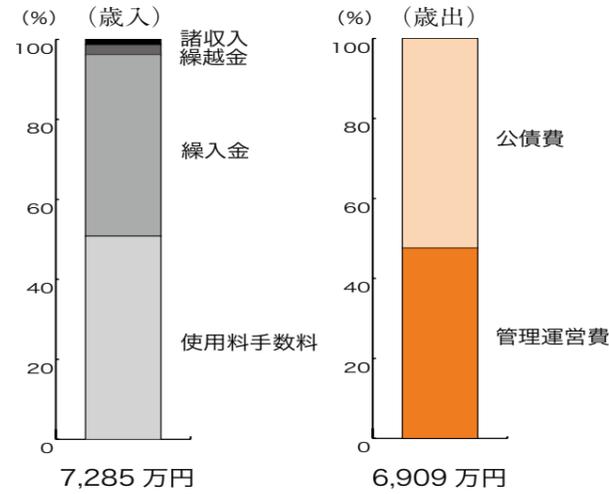
借入金の返済のうち、普通交付税で措置されるものを除いた額が一般財源に占める割合です。3カ年平均で表しています。

平成16年度に高くなった原因は、借入金の満期一括償還によるもので、その影響が同18年度まで続いています。来年度には、その影響がなくなるので、数値は低くなる見込みです。

《農業集落排水事業》



《漁業集落環境整備事業》



小浜市土地開発公社

損益計算書	
事業原価 1 億 3,400 万円	事業収益 1 億 2,155 万円
販売費・一般管理費 17 万円	営業外収益 738 万円
事業外費用 597 万円	当年度純損失 1 億 9,055 万円
特別損失 1 億 7,935 万円	
計 3 億 1,949 万円	計 3 億 1,949 万円

貸借対照表	
流動資産 14 億 7,622 万円	流動負債 2 億円
固定資産 11 万円	固定負債 10 億 8,114 万円
	資本金 400 万円
	準備金 1 億 9,119 万円
計 14 億 7,633 万円	計 14 億 7,633 万円

企業会計

《水道事業》

損益計算書	
営業費用 3 億 974 万円	営業収益 4 億 655 万円
営業外費用 9,988 万円	営業外収益 430 万円
当年度純利益 123 万円	
計 4 億 1,085 万円	計 4 億 1,085 万円

貸借対照表	
流動資産 4 億 1,565 万円	流動負債 9,289 万円
固定資産 66 億 8,724 万円	資本金 37 億 4,300 万円
	剰余金 32 億 6,700 万円
計 71 億 289 万円	計 71 億 289 万円

《国民宿舎事業》

損益計算書	
営業費用 9,927 万円	営業収益 9,097 万円
	営業外収益 59 万円
	当年度純損失 771 万円
計 9,927 万円	計 9,927 万円

貸借対照表	
流動資産 6,874 万円	流動負債 697 万円
固定資産 9,348 万円	資本金 1 億 2,982 万円
	剰余金 2,543 万円
計 1 億 6,222 万円	計 1 億 6,222 万円

第3セクター

《(株)ケーブルテレビ若狭小浜》

損益計算書	
営業費用 3 億 2,021 万円	営業収益 4 億 3,625 万円
営業外費用 604 万円	営業外収益 397 万円
特別損失 7,020 万円	特別利益 6,026 万円
法人税等 4,387 万円	
当期純利益 6,016 万円	
計 5 億 48 万円	計 5 億 48 万円

貸借対照表	
流動資産 1 億 6,197 万円	流動負債 4,261 万円
固定資産 2 億 3,140 万円	固定負債 2 億 6,540 万円
繰延資産 120 万円	資本金 4,000 万円
	剰余金 4,656 万円
計 3 億 9,457 万円	計 3 億 9,457 万円

《(株)小浜市総合卸売市場》

損益計算書	
営業費用 1,462 万円	営業収益 2,037 万円
営業外費用 1 万円	営業外収益 35 万円
法人税等 185 万円	特別利益 12 万円
当期純利益 436 万円	
計 2,084 万円	計 2,084 万円

貸借対照表	
流動資産 1,759 万円	流動負債 5,284 万円
固定資産 1 億 7,986 万円	固定負債 998 万円
	資本金 8,000 万円
	利益剰余金 5,463 万円
計 1 億 9,745 万円	計 1 億 9,745 万円

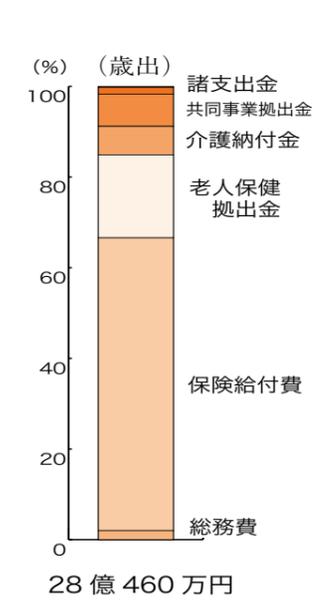
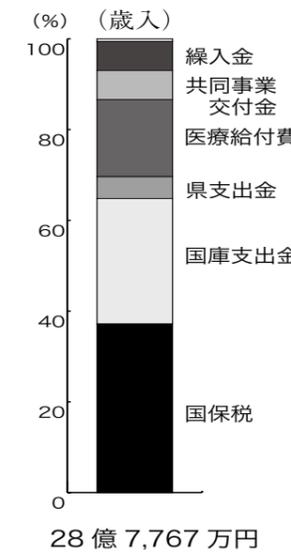
特別会計・企業会計の決算

特別会計とは、特定の事業を行うために一般会計とは別に経理を行う必要がある会計のことです。特別会計では、使用料収入が主な財源になります。このため、採算性とサービスの確保と同時に、収納の取り組みに努めています。

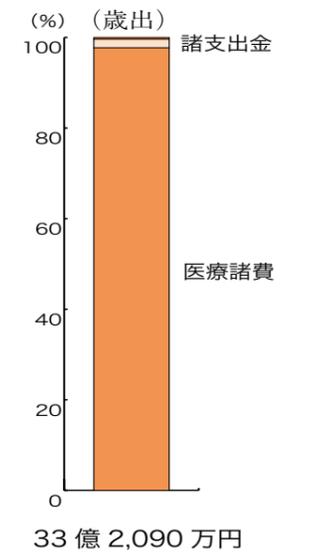
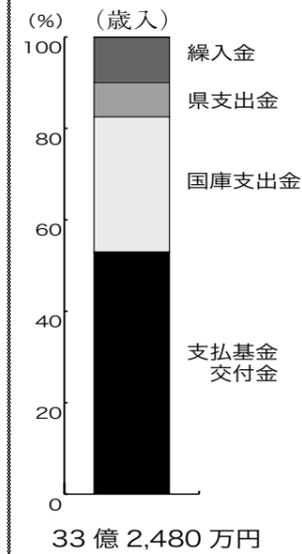
また、企業的に運営し独立採算制をとっているのが企業会計です。

特別会計

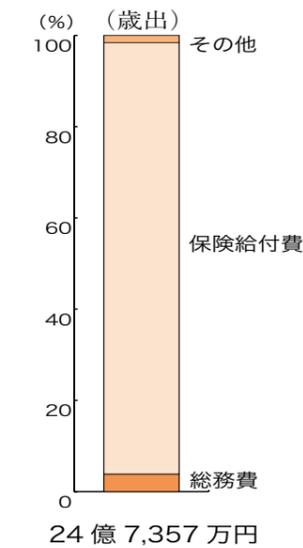
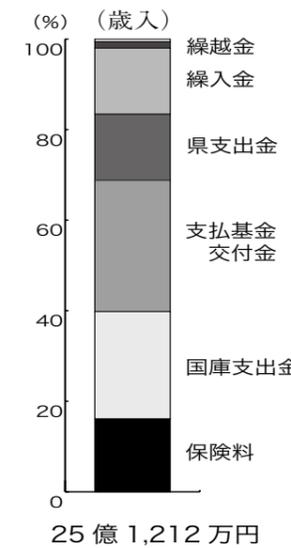
《国民健康保険事業》



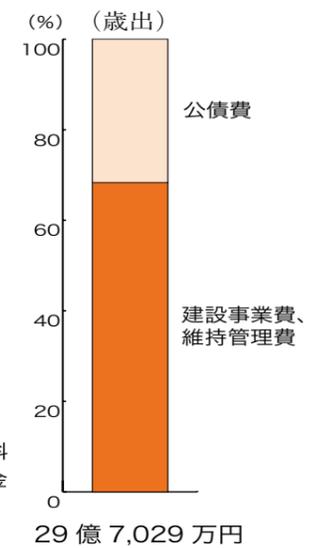
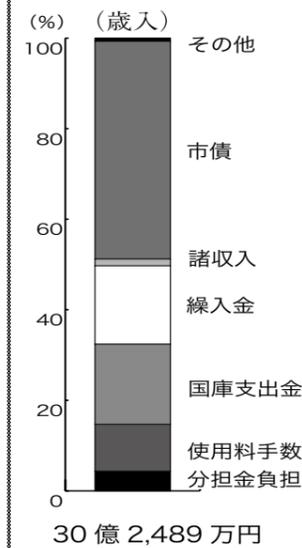
《老人医療事業》



《介護保険事業》



《下水道事業》



《加斗財産区運営事業》

歳入 3 万円
歳出 2 万円

《簡易水道事業》

歳入 9,322 万円
歳出 8,564 万円

《駐車場事業》

歳入 3,578 万円
歳出 3,218 万円